

## 武吉氏寄贈の古瓦

飛鳥資料館

飛鳥資料館は昭和54年1月25日、武吉道一氏（神奈川県三浦郡葉山町）より古瓦8点及び千葉県竜角寺仏頭模造（香取秀真製作）を御寄贈いただいた。このうち古瓦資料は、氏が関西在住の折衷集されたもので、豊浦寺、桧隈寺など奈良県出土の資料を主とし、他に大阪府、千葉県出土の資料を含む。ここにその一部を紹介し、武吉氏の御厚意に報いたいと思う。

1. 奈良県豊浦寺 いわゆる高句麗系の単弁8弁蓮華文軒丸瓦。須恵質に近い焼成で極めて堅緻。丸瓦広端四面を削って接合する。和田庵寺、平吉遺跡に同范例がある。
2. 千葉県竜角寺 突出した外縁に3重圈をめぐらす山田寺式の単弁8弁蓮華文軒丸瓦。中心の蓮子が大きく、蓮弁の輪郭線が失なわれ、子弁も細い点などに独自性が認められる。瓦当裏面を上下に2分する横一文字の篦描き沈線がある。
3. 大阪府善正寺 平坦な外縁に3重圈をめぐらす単弁8弁蓮華文軒丸瓦。善正寺にはこの他に類似の瓦当文様の軒丸瓦が2種あるが、本例は全体に平板で間弁が相互に連なるなど最も後出のものであろう。丸瓦広端四面を削って接合する。瓦当面には木目の痕跡が著しい。
4. 奈良県桧隈寺 6275G型式。瓦当裏面全体に接合粘土を1層足して接合する。接合粘土の剥離面には一部布庄痕が残る。接合手法は藤原宮出土の6273Bの割型作りのそれに類似するが、側面は丁寧なナデ調整を施すため割型合せ目などの痕跡は認められない。
5. 奈良県東大寺 6301C型式。いわゆる興福寺式軒丸瓦のうち最も小振りのもの。興福寺と平城宮に同范例がある。注記によれば戒壇院から出土したというが、やや疑問がある。
6. 奈良県大安寺 単弁か複弁か表現が不明確。外区外縁は素文。瓦当は厚い。（大脇 潔）